

令和4年度 学校評価(自己評価) 兵庫県こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな」
学校教育方針

「児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す

令和4年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
- (2)学校から積極的に情報を発信し、家庭・地域とさらに、多様につながります。
- (3)校務や教育におけるICT機器の活用を推進します。
- (4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
- (5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

自己評価項目(教員)			
学部・分室目標	具体的な取り組み	達成状況(今年度実績)	
小学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、自分なりの方法で挨拶や返事をする事ができるよう指導支援を行う。	1 朝の会や授業の活動の中で、呼名し返事をする場面を設定する。また、登下校時にも「おはようございます」「さようなら」という場面を設定し、毎日継続して取り組む。	1 朝の会の中で呼名に返事したり挨拶したりする場面を設定し継続して取り組むことができた。繰り返し取り組むことで、児童に応じた方法で挨拶をしたり、返事したりすることができるようになった。
	2 キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、係活動等決められた仕事に取り組みすることができるよう指導支援を行う。	2 児童の実態に応じた係活動を設定し、ICT機器を活用しながら写真やイラストで活動内容を明確できるようにする。手順表を作成したり、繰り返し取り組んだりする中で、一人でできるように支援していく。	2 児童に合わせた係活動や役割分担を設定し、取り組むことができた。児童が取り組む様子を動画で見て、振り返りをしたことで友達の様子にも関心を持つことができた。意欲的に取り組んだりすることができた。
中学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における場や状況に応じて適切に行動することを重視し、状況に応じた挨拶を知り、適切な言葉遣いや他者との関係を意識できるように指導支援を行う。	1 「おねがいします」「ありがとう」等、その場に応じた挨拶や言動を設定し、ICT機器等を活用し、指導方法を工夫する。音声だけでなく、手話や文字・絵カード等、個々に応じた表現方法を工夫する。	1 日々の授業場面や生活場面で、挨拶を意識させる活動を設定し、電子黒板やタブレットなども活用しながらマナー等を学習することができた。「ありがとう」や身振り等で、その場に応じた言動ができる生徒が増えた。
	2 キャリア教育における役割の理解と実行を重視し、自分の役割を理解し、やり遂げようとする態度・意欲を身に付けられるよう指導支援を行う。	2 学級の当番活動や係活動を設定し、生徒に応じて取り組みやすいように支援等を行う。取り組みやすい活動から始め、経験をもつ機会を確保する。どの生徒にも役割を与え、その内容をわかりやすく明確に示す。	2 一人一人に応じた役割を設定することで、生徒は自分の役割を理解し取り組むことが概ねできた。毎日の取組の中で、自分から行動する生徒もおり、周りから褒められ自己肯定感を高めることができた。
高等部 重点目標 (3)(5)	1 卒業後の生活を見据え、挨拶、返事、身だしなみを含めた人との接し方を身に付けることができるよう、指導支援を行う。	1 各教科、課題学習、HR等において、語先後礼の挨拶、適切な声の大きさでの返事、身振りで応答、ハンカチの携帯、服装のチェックなど、個々の課題に応じて目標を設定する。ICT機器を活用し、動画で確認するなど、視覚的に理解が深まるように工夫する。	1 朝の会でのハンカチ調べや身だしなみのチェック、授業、集会などでの語先後礼の動作、SSTで人との接し方を学ぶなどの時間を確保した。iPadなどのICT機器を活用し、目標を可視化したり、視覚的にわかりやすく提示できた。
	2 他者との関係の中で、お互いの役割を尊重して助け合ったり、協力したりすることができるよう、指導支援を行う。	2 朝の会、終わりの会、係活動などにおいて、自分の役割を理解した上で、友だちの役割を尊重したり、助け合ったりできるよう、場に応じたわかりやすく説明する。また、友だちと協力して取り組む場面を多く設定する。	2 クラスの係や行事での役割を具体的に決めることで、役割を通じて、お互いに協力したり、助け合ったりする場面を設定できた。自他の役割を理解し、助け合う場面が増えたことで、他者と協力する意識を高めることができた。
分教室 重点目標 (2)(3)(5)	1 人とのコミュニケーション能力を育むために、「交流および共同学習」の継続及び充実を図る。また、その様子や成果を保護者と共有する。	1 感染症拡大防止策を考慮し、計画的・段階的に取り組むと共に、状況に応じたプログラムの準備をしておく。また、取り組みの様子や成果は、ブログや各通信を通して丁寧に広報を行う。	1 交流体育祭ではブロック演技を、交流文化祭では相互鑑賞や共同制作などの活動を行えた。通常授業では家庭・福祉に関わる授業や理科実験、プログラミング講座などで共に活動した。活動の様子は学年通信やブログに掲載し、保護者と共有できた。懇談期間に動画を保護者や生徒が視聴できるようにした。
	2 学校での教育活動において、ICT機器の活用を推進することで、情報活用力の向上と情報モラルの育成を図る。また、その様子や成果を保護者と共有する。	2 「総合的な探究の時間」や「職業」課題学習等において、タブレットやノートパソコンなどを使った学習を積極的に取り入れる。また、その際に取り扱いマナーや情報の取捨選択の方法を身に付けることについても指導する。その様子や成果はブログや各通信等を通じて丁寧に広報を行う。また、特別支援学校技能検定(パソコン部門)の受検で成果を確認する。	2 ICT機器の使用を取り入れた学習活動を行えたか。生徒の情報機器の活用力は向上したか。生徒の情報モラルが向上したか。学習の成果や様子を、ブログや通信に掲載できたか。技能検定の受検につながる内容を組み込んだ学習活動ができたか。

評価基準

- A(4):よくできた
- B(3):できた
- C(2):あまりできなかった
- D(1):できなかった

評価基準

- A(4):はい そう思う
- B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う
- C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない
- D(1):いいえ そう思わない
- E(0):知らない わからない

アンケート項目(保護者)					
取り組みについて	評点	評価グラフ	取り組み効果について	評点	評価グラフ
今年度、小学部では「あいさつや返事」「係活動など仕事に取り組む」を指導支援の重点目標にしています。学部での取り組みについて伺います。			②あいさつについて、お子さまの変化や成長を感じられますか。		
①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.33		③学校での係活動などの取り組みから、お子様の変化や成長を感じられますか。	3.25	
小学部	3.34				
今年度、中学部では、「場に応じた適切な行動(あいさつ、言葉遣い、他者との関係)」「役割の理解と実行(やり遂げようとする態度・意欲)」を指導支援の重点目標にしています。学部での取り組みについて伺います。			②場に応じた言動(あいさつ、お礼等)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。		
①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	2.73		③役割の理解と実行(やり遂げようとする態度・意欲)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.03	
中学部	2.73				
今年度、高等部では、「人との接し方(挨拶、返事、身だしなみ 等)」「互いの尊重(助け合い、協力)」を指導支援の重点目標にしています。学部での取り組みについて伺います。			②人との接し方(挨拶、返事、身だしなみ等)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。		
①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	2.93		③互いの尊重(助け合い、協力)について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	2.91	
高等部	2.93				
今年度、分教室では、「互いの尊重、助け合い」情報リテラシー力の向上」を指導支援の重点目標にしています。分教室での取り組みについて伺います。			②互いの尊重や助け合いについて、お子さまの変化や成長を感じられますか。		
①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	3.25		③情報リテラシー力の向上について、お子さまの変化や成長を感じられますか。	3.42	
分教室	3.25				

アンケート回収率

小学部 : 53%
中学部 : 32%
高等部 : 37%
分教室 : 26%
訪問教育: 100%

成果と今後の課題

毎日継続して継続して取り組んだことで、児童が自分なりの方法で返事やあいさつをする場面が増えてきた。教師も様々な場面で、あいさつや返事について意識して働きかけることができた。児童に応じた。応答の仕方について共通理解を図り、身近な教師だけではなく、徐々に様々な人とのかわりを広げていきたい。あいさつや返事はコミュニケーションの土台となる重要なものなので、小学部段階から繰り返し取り組み積み重ねていきたい。、

児童の実態に応じた係活動を設定し、手立て等を工夫しながら取り組むことができた。児童の活動の様子や成長を連絡帳や懇談に保護者に伝えたとことで8割以上の保護者の「そう思う」「まあ、そう思う」との回答につながったと考える。繰り返し取り組むことで定着し、児童も「自分の仕事」として役割を認識し、自ら取り組み児童も増えてきている。今後も、学校でできていること、できるようになりつつあることを家庭に伝え、家でのお手伝い等につなげていきたい。

アンケートの結果から、取り組み内容についての周知徹底の弱さを感じるため、来年度も学部通信等を通じて保護者にも伝えていきたい。しかし、②の取り組み効果に関しては、「そう思う」「まあ、そう思う」が7割以上あり、挨拶やその場に応じた適切な行動等、子どもの成長を感じた保護者が多かったと考えられる。今後の課題としては、挨拶や言葉遣い等、更に意識できるように場面を設定する等の取組を行っている。

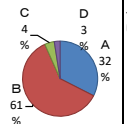
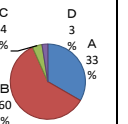
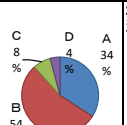
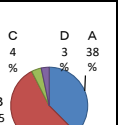
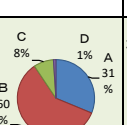
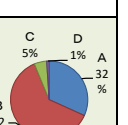
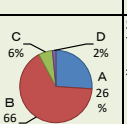
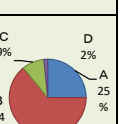
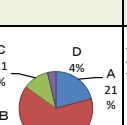
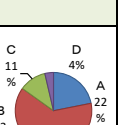
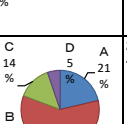
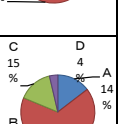
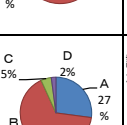
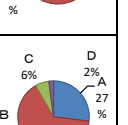
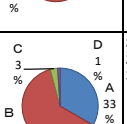
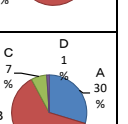
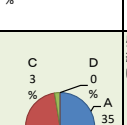
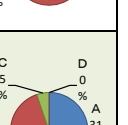
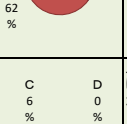
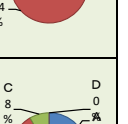
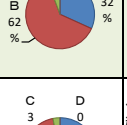
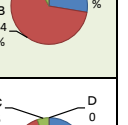
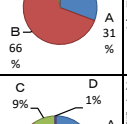
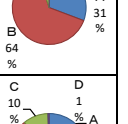
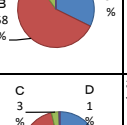
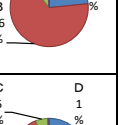
③について、取り組み効果については、「そう思う」「まあ、そう思う」が8割以上あり、子どもが役割をやり遂げようとする姿が保護者にも感じられていると考えられる。学校での、一人一人に応じた役割設定や取り組みの効果があったと思われる。今後の課題としては、一人一人の実態に応じた役割と内容のキャリアアップや、家庭と連携し「お手伝い活動として家でも何か自分の役割を担う働きかけをしていく取り組みを考えていく。

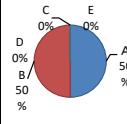
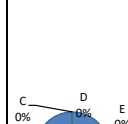
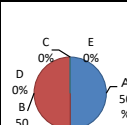
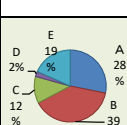
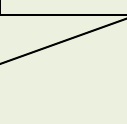
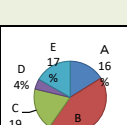
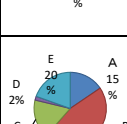
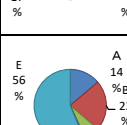
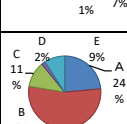
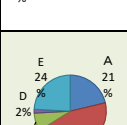
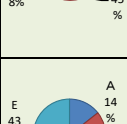
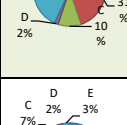
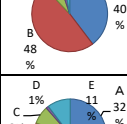
挨拶、返事、身だしなみ等の人との接し方について、学校での取り組みは教師、保護者ともによく取り組めたとの回答がほとんどであった。ただ、その効果については保護者のほうで20%程度どちらかというとそれほど思わないとの回答があった。小さいころからの積み重ねが必要項目ではあるが、社会に出たとき最も必要な事柄の一つであるので、今後も家庭との連携を密にし、連携しながら効果的な方法を模索しつつ、根気よく指導を継続していく必要がある。

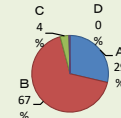
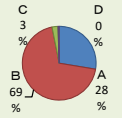
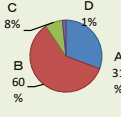
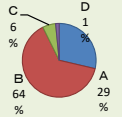
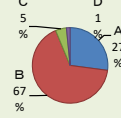
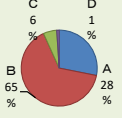
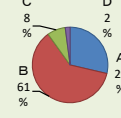
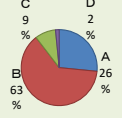
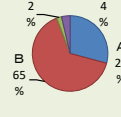
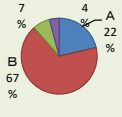
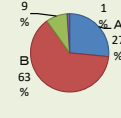
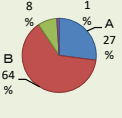
助け合いや協力といった互いの尊重について、これも学校での取り組み自体は教師、保護者ともによく取り組めていたとの回答がほとんどであった。効果については、保護者のほうで若干あまりそう思わないという回答もあったが、概ね変化や成長を感じられたようである。お互いの役割を尊重しつつ助け合う力というのは、学校生活の中で係活動やクラス活動、また行事など様々な場面で培われていくものであるため、生徒の実態に応じて、学校でより多く場面設定をしていく必要がある。また、生徒の変化を保護者に伝え、小さな成長であっても学校と家庭が共有していくことが今後も大切である。

肯定的な意見は、教師と保護者共に9割前後と概ね成果が出ているという結果となった。保護者からは成長や変化が感じられるとの評価を得ており、十分に成果が出ていると判断できる。しかし、保護者の意見はAよりもBが多い。これは、もっと生徒にとって有意義な活動を行いたいという意欲の現れではないかと推測する。今後の課題は、感染症拡大防止に努めながらも、より良い成果を上げられるように「交流及び共同学習」のさらなる充実である。

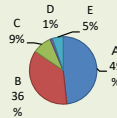
肯定的な意見が保護者では100%となった。これだけ保護者に評価をいただいたと共に、通信やブログ等で伝達できたということと推測できる。しかし、教師では8割に満たない結果となっているが、これは目指す到達点において教師がより高い到達を望んでいる結果であると推測する。今後の課題は、今年度同様に広報を続けながら、さらに高い情報リテラシー力の向上を家庭と連携することで目指すことである。

訪問教育	1 生活のリズムを整え、継続して学習に取り組むように、家庭、医療、福祉との連携を図る。	1 授業内容や学習内容、時間設定に配慮ができるよう、家庭との連携を大切にし、医療、福祉関係者と連携を図り、児童・生徒の現状を共有する。	1 授業日やスクーリング、遠足の設定では、保護者や医療と連携し児童生徒の状況に応じて決めることができた。その結果、児童生徒への負担が少なく、安全に活動に取り組む環境を整えることに繋がった。	1 家庭や関係機関と連携し、児童・生徒の情報を把握できた。また、それらを授業計画に活かすことができたか。	3.23		1 児童生徒が、その時々の状態に合わせ、安心安全に楽しく課題に取り組むことができたか。	3.24	
	2 スクーリングやタブレット交流等、家以外の環境や他者との関わる機会を充実させる。	2 受け入れクラスや学年、学部の教師と積極的に連携を図り、より良い授業を行うため共通理解を深める。	2 スクーリングや遠足などの校外活動に計画的に取り組むことができた。学年の教師や関わりのある職員と積極的に連携を図ることで、児童生徒をより深くサポートできる体制に繋がり、児童生徒が他者に興味関心を持ったり、自然なやり取りができたし、有意義に活動に参加することができた。	2 交流クラスの教師と連携を図り、協力して児童・生徒の学習の機会を充実させるための工夫をすることができたか。 タブレットなどの通信機器の設定をし、家庭とやり取りができたか。 スクーリングや校外学習の計画を立て、無理なく実施できたか。	3.18		2 楽しくスクーリングやタブレット交流に参加することができたか。	3.27	
支援部 重点目標 (2)(4)	1 全校児童生徒の状況を把握し、校内の関係部署や外部の関係機関と有効につながり支援する。	1 担任間で共有し、相談用紙等を活用して情報を発信する。日頃の様子等と合わせて必要に応じて校内の関係部署と共有し、福祉や専門家につないで児童生徒の支援をすすめる。	1 口頭のみならず相談用紙等を活用して報告を受けることで、校内及び校外の関係機関にも同じ情報を伝え、支援を行うことができた。	1 担任間で情報を共有したうえで、相談用紙等を活用して適切に伝えることができたか。必要に応じて連携を図り、協力して有効な支援を行うことができたか。	3.21		1 協力して有効な支援を行うことができたか。	3.24	
	2 家庭・福祉・学校の連携を推進し、児童生徒へのより良い支援を行う。	2 三者間の連携について職員会議等で周知する。保護者には懇談会やプリントにて説明を行い、連絡帳の共有の希望を確認する。事業所にはプリントやホームページ、連絡協議会等にて周知する。日々の情報共有や連携会議等には適宜対応する。	2 児童生徒が利用している福祉サービス事業所や、連絡帳の共有についての実態等をまとめ、各市の放課後等デイサービス連絡会で本校の現状を報告した。保護者の希望により相談支援事業所を中心として連携会議が設定され、支援に繋がる場が増えた。日々の情報共有や連携会議等には適宜対応する。	2 家庭・福祉・学校においてそれぞれに連携について説明できたか。 連絡帳の共有、日々の情報共有、連携会議等で適宜連携できたか。	3.17		2 三者間の連携を推進することができたか。 連携を生かし、児童生徒の支援をすすめることができたか。	3.13	
総務部 重点目標 (2)(3)	ホームページの内容の充実に向けて改編を更に進めていく。	1 学校行事やブログ等、閲覧頻度の高いバナーがホームページから見やすいように表示し、更新が進んでいないコンテンツの内容を見直す。	1 内容を掲載した際、ホームページの「最新のお知らせ」から開けるように、各担当が意識できるようになってきた。また、毎月のたよりや行事予定、本校進学に関する案内も、随時更新して掲載できた。	1 各バナーの効果的な活用方法について各自が意識して取り組むことができたか。	3.02		1 保護者や関係機関、地域にとってわかりやすく、必要十分な情報を更新することができたか。	3.03	
		2 行事や日常の授業等の様子を、個人情報に配慮しながら活動の様子がより伝わる写真を選定してブログを掲載する。	2 日常の授業だけでなく、校外での活動や宿泊行事、高等部の実習、交流など、幅広くブログにあげることができた。また、児童生徒生の活動に取り組む様子や表情がより伝わる写真を、個人情報に配慮しながら選定できた。	2 日常の様子や学習活動に焦点を当てたブログをより多く掲載できたか。	2.97		2 ブログを見た保護者が活動の様子を十分に知ることができたか。	2.92	
進路指導部 重点目標 (2)(5)	1 わかりやすく情報を発信し、学年と連携しながら保護者へのサポートを充実する。	1 進路通信の内容を吟味し、わかりやすく伝えるように工夫する。学年からの発信や担任との連携を丁寧に行う。	1 進路通信を月一回発行し、行事での取り組みや新規事業所の案内等を行うことができた。また、保護者から進路に対する質問が来た場合は、進路指導部から紙面ににしたコメントを返し対応した。	1 進路通信の内容が適切で、文章は平易で読みやすいか。学年通信や連絡帳を通して、進路行事や進路指導に向けた発信の補足ができたか。	3.18		1 確実に情報を発信し、生徒や保護者の疑問や不安を軽減することができたか。	3.17	
	2 本人にとってよりよいキャリア形成を進めながら進路指導を行う。	2 保護者、担任、進路指導部の連携、授業だけでなく、学校生活全般、家庭生活を併せて生活自立や社会自立に向けた生活指導を行う。	2 「ひょうご障害者ワークフォーラム」や企業主催の「見学会」の事前・事後指導を行った。1年生対象に「進路学習」を行い、進路選択に向け理解を深めることができた。	2 個別教育支援計画や懇談での内容を踏まえ、連絡帳等で家庭と連携できたか。	3.28		2 本人・保護者・学校が連携し、生活自立・社会自立の力をつけることができたか。	3.21	
生徒指導部 重点目標 (1)(2)	1 児童生徒の心や体を守る校内環境づくりを行う。	1-① 感染状況に合わせて訓練行事などを見直し、取り組む。	1-① 感染症対策により、集団活動を分散して行うよう訓練行事等の内容を一部変更し、取り組むことができた。そのことで、災害食や持ち出し物等の確認や搬出ができた。	1 保健部など他の分掌とも連携し、感染症対策を行いながら訓練行事などに取り組めたか。また、情報発信ができたか。	3.32		1 感染状況を踏まえつつ、よりよい訓練行事が行えたか。その活動について、保護者に情報が伝わったか。	3.26	
		1-② 児童生徒会を中心に、児童生徒が主体的に仲間づくりの取り組みができるように推進する。	1-② 児童生徒会役員を中心に仲間づくりができる内容を話し合うことができた。挨拶運動や新入生歓迎会等の活動を通して友だちとの関りを深める時間を作ることができた。	1 感染症対策を行いながら、児童生徒が主体的に活動できる取り組みを推進できたか。また、情報発信ができたか。	3.26		1 児童生徒会が、主体的に仲間づくりについての活動を行うことができたか。	3.19	
保健部 重点目標 (1)(2)(4)	1 児童・生徒が健康で、安心、安全な学校生活を送るため、状況に応じた感染症対策を継続する。	1 感染症対策においては、家庭、学校全体で連携する。また、校医などの専門家の意見を参考にし、保護者や職員に積極的に情報発信を行う。	1 こやのさとスタイルを6月と11月に改訂し、HPにもアップした。感染状況に応じて、7月には健康チェック表を保護者に記入してもらった。その都度、学校医に相談し、保護者にはお便り、職員にはガールーンで知らせた。	1 保護者は、おたよりやホームページで情報を知ることができたか。 職員は、会議や掲示板等でタイムリーに情報を得ることができたか。	3.28		1 保護者は、おたよりやホームページで情報を知り、感染対策を継続することができたか。 職員は、会議や掲示板等でタイムリーに情報を得て、家庭と連携できたか。	3.26	
	2 児童生徒に自らの健康を守るための能力を身に付けさせるため、感染症の予防対策を含む保健学習を行う。	2 月間保健目標及び給食目標についての学習を通じて、心身の健康教育を行う。	2 健康目標と給食目標の学習は、毎月クラスで行うことが定着した。児童生徒、教職員とも、その月の目標を意識して行動できる一助となっている。	2 クラスでの活動の中で保健目標や給食目標について指導することができたか。	3.22		2 クラスでの活動の中で保健目標や給食目標を児童生徒が理解し行動できたか。	3.12	
	3 安全・安心な学校給食の実施に努め、旬の食材を使用するなど、献立内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。	3 給食だよりを通じて、食についての情報発信をする。また、「こんだてひょう」のローメモを活用し、毎日の給食指導につなげる。	3 2学期より給食放送を毎日行った。こんだてひょうの活用は徐々に定着してきている。	3 児童生徒、保護者に対して、食に関する情報提供や食育ができたか。	3.31		3 児童生徒が食について関心をもつことができたか。	3.26	

訪問教育	今年度、訪問教育では、「家庭・関係機関との連携」「受け入れ学年、クラスとの連携」を指導支援の重点目標にしています。訪問教育の取り組みについて伺います。			②お子さまは、安心安全な環境で授業を楽しまれていますか。	3.50		健康状態等保護者と相談しながらほぼ予定通りに、訪問授業の時間を確保することができた。理学療法を受けている様子を見学し、PTからの指導助言を受けて、からだの学習を安全に進めることができた。引き続き、安心安全な環境を維持する。
	①上記重点目標の内容について、学校はよく取り組めていたと思いますか。	4.00		③家庭以外での学習機会は、お子さまにとって有意義な学習となりましたか。	3.50		新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた中でも、十分な対策をとりながら、スクーリングや校外学習において交流することができた。感染症の状況によってスクーリングが中止されることもあった。今後の課題としては、定期的なスクーリングや校外学習の確保とともに、充実した交流をはかれるように努める。また、行動と共にできない時には、ICTを使用して、タイムラグなく交流できる環境を作る。
支援部					2.56		相談があったケースについて、必要に応じて校内外の関係部署や機関と連携を取り、一緒に考える機会を持つことができた。連携の際には、相談用紙に記載された担任からの情報を適切に伝えることができ、より正確に情報共有することができた。担任や保護者だけで課題を抱えるのではなく、チームで支援を進めることや外部機関との連携が児童生徒の支援に有効であることを再度職員及び保護者にも周知していきたい。
							連絡帳の共有、デイ迎えでの口頭連絡を日々行っている。放課後等デイサービス連絡会に参加し、三者の連携について協力しながら進めていきたいことを伝えている。保護者希望による連携会議が増えてきており、日程調整等工夫しながら開催している。困りごと等を保護者・相談支援事業所や福祉サービス事業所、学校が共有し、対応等考えやすい機会であり、児童生徒の支援に活かしている。今後も三者でのよりよい連携ができるよう、連携についての周知徹底と開催の仕方を考えていきたい。
総務部					2.38		ホームページの掲載方法について、習得した担当が増えたことにより、トップページにある「学校からのお知らせ」や「新着」に、重要な内容や最新情報が表示され、情報が見やすくなった。オープンスクールの案内では、ホームページから申込ができるようにしたが、混乱なく進めることができた。今後は、総務部から全職員へ情報発信が大切であることを、より一層促し、各担当が内容を随時更新していけるように働きかけていく必要がある。また、ホームページ運営の総務部と管理の教務部情報係と連携が
					2.36		各学年月に1度のブログアップを目標に取り組んだが、学部学年でのアップ回数のばらつきがあった。そのため、保護者をはじめ情報を知りたい側との評価に差異が生じたと考えられる。今後は、学年毎に月1回は必ずブログアップをいくことを全職員が意識し、総務部員が中心となって原稿依頼をしていくようにする。また、わかりやすく誰でもブログアップできるように、個人情報の取扱いや掲載方法等ガイドラインを検討していく。
進路指導部					2.81		昨年度は、文章が中心であった「進路通信」から、今年度は進路に関わる行事等を積極的に写真を活用し発信してきた。しかし、回答の大半が「そうとは思わない」以下の回答になっており、再度次年度に向けてどういった内容を保護者が求めているのかを考える必要がある。また、進路説明会は、高等部を中心としているが、中学部2年生に向けても開催している。今回の回答の比率が小・中学部の方が多いことを考えると、幅広く発信が必要と考える。
					1.37		教師と保護者の回答は、「AもしくはB」であり、大きな差はないが、一部の保護者の中には、「E」に回答された方がおり、真摯に受け止める事項であると考え、保護者からの疑問や相談に対応し窓口となるのは、まず担任であるため、「進路情報の共有」や「教師間の連携」を強化することで、窓口となる担任も対応しやすくなり、改善していけるのではないかと考える。
生徒指導部					2.37		感染症対策により、集団活動を分散して行うよう訓練行事等の内容を一部変更し行った。本来は学校全体で集合したり、活動したりすることが求められる訓練が小集団での分散した活動になってしまった。このことが、保護者の回答の割合に反映されたのではないかと推測する。徐々に感染拡大前の活動ができる状況になりつつあるので、より本来の活動に近づけるよう改善していく必要があると考える。
					1.71		教師は児童生徒会役員を中心に話し合っている様子や、挨拶運動や新入生歓迎会等の活動を通した活動の様子を身近で見ることができたので、ほぼ活動ができたと回答したと考えられる。保護者の4割は活発にされた活動をご覧になることが出来なかったことが原因で分からないと回答されたのではないかと推測した。活動している状況がより保護者に伝わるように発信する手立てが必要であると考える。
保健部					3.20		職員については、職員会議やガールーン、掲示板等により伝えており、保護者についてはお便りやHPなどでお知らせしている成果がA,B合わせて88%の評価に表れている。新型コロナウイルス感染症が流行して3年が経過し、学校の感染症対策について周知・定着してきた。
					2.91		保護者向けには、具体的な取り組み内容についてお知らせすることができていないが、A,B合わせて80%の評価をしていただいたので、健康や清潔、食に関するクラスでの指導の成果が子どもたちの様子に表れているのであればうれしく思う。学校保健委員会の資料には各学年の保健学習や性教育について、詳しく載せており、職員には他学年の指導についても知っていただけた。
					3.35		毎月の給食だよりでは、より食に対するの興味を持ってもらえるように工夫した。今年度は、新たに毎日の放送や給食試食会などを実施した。試食会に参加した保護者・職員からアンケート調査を行い、給食に対する理解が深まったと感じる。

研究部 重点目標 (4)(5)	1 研修会等を通して、PDCAサイクルを考えた授業づくりを共通認識し、研究日等を活用しながら、「子どもがわかって主体的に動ける授業づくり」を学年等で考え、実践する。	1 児童生徒の「つきたい力」を考え、観点別評価シート等を活用して、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を模索する。	1 研究日に学年で研究授業について討議することができた。活動量、日常生活への般化などの視点を持ち、観点別評価シートで一人ひとりの子どもの実態目標評価について授業前後で検証することができた。	研究部	1 研究日のスケジュールや取組を明確化し、学年で相談しながら、授業づくりができたか。また、子ども同士が関わる場面を設定することができたか。	3.24		1 児童生徒が主体的・意欲的に授業に取り組めたか。授業後の反省会でも、次の授業につながるような振り返りができたか。	3.24	
	2 校内研修会や公開研究授業を参観することを通して、授業の取り組み方や子どものいろいろな支援方法の研修会を行う。	2 感染防止を念頭に置き、授業づくりや支援方法等に関する校内研修会の内容、方法等を検討する。公開研究授業においても、参観の仕方や反省会の持ち方などを検討する。	2 感染防止対策を取りながら、年に2回授業改善研修や他学部との取り組みを知る上で全校実践報告会を実施した。「わかって動ける授業づくり」や「対話」について考える機会となった。また、小石STI「言語指導」についてご講演をいただくなど子どもの支援についていろいろな角度から学ぶことができた。		2 校内研修の内容や方法を検討し、授業づくりだけではなく、いろいろな支援方法に関する研修会を実施できたか。	3.20		2 教員は、研修会や公開授業などを通して、授業づくりに生かせる情報等を得ることができたか。	3.20	
自立活動部 重点目標 (4)(5)	1 自立活動研究日を計画的に運用し研修機会を設定する。	1 各学部の状況に応じて自立活動研究日を設定し、効率的に運営する。	1 学部の実態に応じて研究日を設定し、計画的に実施することができた。あらかじめ資料や映像を準備することでより理解を深めることができた。	自立活動部	1 各学部の実態に応じて自立活動研究日の計画的な運営ができたか。	3.19		1 自立活動研究日の内容が周知され、教員は研修機会を有効に活用することができた。	3.20	
	2 児童生徒の実態に基づく専門的な指導方法を共有し、充実させる。	2 授業交流、事例研究、専門家の情報等、実践的内容で企画する。	2 OTとSTの回数が増えたことで昨年より多くの専門家からの助言が得られ、授業づくりの工夫を共有することで、指導のアイデアや視点を共有することができた。		2 授業交流、事例研究、外部専門家のいづれかを活用できたか	3.17		2 児童生徒の障害特性や発達に応じた授業づくりについて、専門的な知見を共有し、活用することができたか。	3.15	
教務部 重点目標 (3)(5)	1 校務支援システムの導入を円滑に進める。	1 校務支援システムの導入に向けて研修会を行う。校務支援システムの運用マニュアルを作成する。	1 予定していた各学部の学年において、校務支援システムを導入した。初期設定、マニュアルの作成、校内研修に取り組み、概ね円滑に導入することができた。支援部と協力し、マニュアルの改善に取り組んだ。	教務部	1 校務支援システムを利用して、個別の教育支援計画の作成することができたか(小1・2・4・5、中1・2、高1・2)。	3.20		1 マニュアルを充実させることができたか。研修を通して問題点を見つけ改善することができたか。	3.06	
	2 教育課程の見直しを行い改善する(キャリア教育につながる教育課程を編成する)。	2 各種教育課程委員会において現行の教育課程を評価し、見直しに関する議論を深める。	2 高等部のコース制を廃止し、すべての生徒に自立活動の時間(週1時間)を設定する教育課程について協議を重ねた。また、協議を行う中で生徒の実態に応じた時間割について考えることができた。		2 課題を整理し、作成した見直し案に基づき教育課程を改善できたか。	3.16		2 教育課程を検討する中で、生徒の実態に合った時間割を考えることができたか。	3.17	
				研究部						
				自立活動部						
				教務部						

3.21



研究テーマ「豊かな力を育てる授業づくり」と設定してから、3年がたち、「子どもがわかって主体的に動ける授業づくり」を基本としたPDCAサイクルによって研究授業について各学年でいろいろな方法で検討できたと思われる。一方、研修会については、授業研修会を2回、「ことばの指導」1回、その他(課題別研修など)の研修など、年間を通して研修機会を持つことができた。ただ、研修の実施方法や内容等については教職員の肯定的な意見が多いものの、より教職員のニーズに対応した研修を今後も企画運営していきたいと考えている。教職員の中で、日々の授業づくり、子どもの支援方法の意識が少しずつ変われば、保護者の授業や支援方法に対するニーズにも応えることになると考えている。

職員および保護者アンケート結果から、計画的に運用し研修機会を設定することで、教師の専門性を深めることができ、日頃の指導に生かされたと考ええる。今後も学部ごとに児童生徒の実態や教師のニーズを取り入れながら計画的に運用していきたい。

ST・OT事例相談報告会やケース検討会、グループ毎情報交換会、授業報告会等、学部に合ったものを実施することで、児童生徒の特性に合った授業を設定したり、個別の指導に取り入れたりすることができた。今後も授業交流や外部講師の事例相談を取り入れ、授業づくりや指導に活用していきたい。

アンケートは職員のみに行った。その結果、「よくできた」「できた」が9割以上あり概ね目標を達成できたと考えている。一方で、「できなかった」と回答した職員がわずかではあるが存在する(回答理由は不明)。今後の課題としては、システムを運用する上で発生する問題を解決するために、マニュアルの見直しと改善に取り組むことが挙げられる。さらに、マニュアルの改善を通して「できなかった」の回答を減らすことに繋げたい。

アンケートは職員のみに行った。その結果、「よくできた」「できた」が9割以上あり概ね目標を達成できたと考えている。成果としては、高等部の教育課程においてコース制を廃止し、すべての生徒に自立活動の時間(週1時間)を設定することができた。今後の課題としては、新しい教育課程が軌道に乗るよう修正、改善に取り組むことが挙げられる。さらに、より良い教育課程を編成するために各学部で取り組んでいく必要があると考えている。